

# 災害・危機対応マネージャー 活動報告



平成30年3月15日

香川大学医学部附属病院 看護師長 國方 美佐

NPO 災害・危機対応支援センター 錦野 順子

# 災害に対応できる看護師の人材育成に向けた取り組み

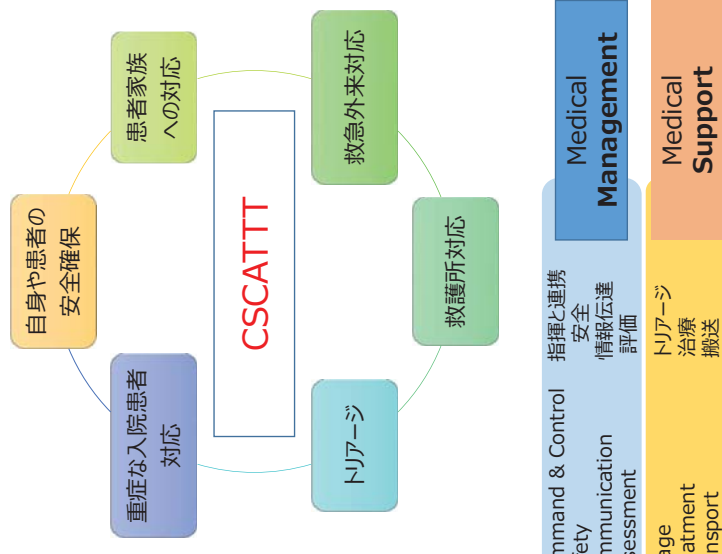
～救命救急センターに災害係を設置して～



香川大学医学部附属病院  
救命救急センター 國方 美佐

## はじめに

- 当院は県内唯一の大学病院であり、**災害拠点病院**である。
- 災害発生時、それぞれの職種に様々な役割が求められる。中でも救命救急センターの看護師は、災害時医療の基本原則である**CSCAに基づきTTTの中核**を担う。
- さらに看護管理者不在時は、職員の安否確認やベッドコントロール、勤務調整といった**マネージメント的な役割**も求められる。



## 救命救急センターの概要

- 病床数：12床
- 看護師数 27名
  - 看護師長1名…**災害・危機対応マネージャー**
  - 副看護師長2名
  - 看護師 24名
- うち、1年目4人、2年目5人、3年目3人

平均年齢：28.2歳  
平均看護師経験年数：5.1年  
平均救急経験年数：4.3年

- 主な業務
  - 救急外来を受診する患者の対応
  - 重症な入院患者の対応
  - 救急だけではなく、内科・外科・小児科・精神科……
  - 新生児から高齢者まで
  - 24時間365日！



## これまでの災害教育

- 災害について学習経験のある看護師長と、看護師1名が主に講師となり災害教育を行ってきた（共に日本DMAT隊員）



2016年6月、救命救急センターの看護師を対象に行った意識調査で、**災害発生時の判断や対応に不安**を感じていた

- 災害発生時の自身の行動や判断
- 入院患者や多数傷病者への対応
- 入院患者の安全確保
- マンパワー
- 院内の指揮命令系統、連絡体制

特にリーダー的役割を担う看護師の不安が大きかった

## 災害係の設置

- 不安を軽減するためには、看護師が受け身ではなく、主体的に災害を学ぶ機会が必要なのではないか
- 災害対応に必要な知識や技術、準備を看護師が主体的に行うことで、看護師の危機管理能力が向上し、日常業務にも活かされるのではないか

### 2017年度より、救命救急センターに災害係を設置

- 希望した3人の看護師を任命・・・いずれも災害に関する院外研修受講歴なし
  - 看護師経験年数19年（救急経験年数：10年）
  - 看護師経験年数10年（救急経験年数：4年）
  - 看護師経験年数4年（救急経験年数：4年）

5

## 活動開始に向け

災害発生時の不安を軽減させるために

災害係として必要な活動は何か

目標・目的をどうするか

いつ・どのように活動するのか

評価指標は何か

看護師長・副看護師長も交えて検討。ただし**主体は災害係**！！

6

## 目的・目標の設定

### 目的

- 災害発生時、救命救急センターの看護師として役割を發揮できる

### 目標

- 看護師が災害発生時の初期対応に必要な知識・技術を習得する
- 看護師が災害対策を行える



7

表1 災害係 年間活動計画

計画	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3												評価指標		
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月			
災害概論															
学習会 災害・火災発生時の初期対応 多数傷病者受入れ・トリアージ															学習会開催状況 (回数・参加人数・参加者へのアンケート)
抄読会 防災設備・避難経路・安全確保															抄読会実施状況
コミュニケーション 災害マニュアル															コミュニケーション実施状況
備蓄品の準備															チャットリスト作成前後での備蓄状況の確認
緊急連絡網整備															連絡網作成状況
日常防災点検強化															アクションカード・防災点検チェックリスト修正状況

8

## 1. 知識・技術の習得

### 学習会

- 災害概論（講義）・・・CSCATTTについて・組織論含む
- 災害・火災発生時の初期対応（講義・演習）
- 多数傷病者受入れ・トリアージ（講義・演習）
- 防災設備・避難経路・安全確保の方法（講義・演習）



### 抄読会

- アクションカード
- 災害マニュアル・BCP

### シミュレーション

- 地震発生の想定
- 火災発生の想定



9

### 抄読会

- 昼のカンファレンス（13：30～14：00）内で、災害係が中心となって実施
- マニュアル内に示された指揮命令系統や用語について補足説明
- 抄読会を行うまで、アクションカードやマニュアルを読んだことのない看護師もいた
- 対応を書いただけのカードではなく、「TTT」に向けて「CSCA」が含まれていることを説明



「分かりにくい」「このカードで行動できるか疑問」との声があり、後に内容の改訂につながった



11

### 学習会

- 講義や演習は、災害・危機対応マネージャーが内容を確認し、災害係とともに実施
- 災害の基本となる「CSCA」を理解してもらうため、若いスタッフであっても**管理的な視点**が必要
  - 災害発生時、**誰もがリーダーになる可能性があること**を強調
- 現在のベッド状況で災害が発生した場合、どのように役割分担し、傷病者受け入れに向けて、どの患者を救命センターから退室させるのかをグループで演習



10

### シミュレーション

- 抜き打ちで2回実施
- シミュレーションを企画・実施するうえでの助言
- 業務調整

### 地震・火災訓練

**日時**：2017年6月16日  
14時30分～

**対象**：救命救急センター看護師約20名

**震源**：鳥取県中部

**最大震度**：震度6弱

**三木町の震度**：震度4

**出火場所**：高圧酸素療法室

### 火災訓練

**日時**：2017年11月21日  
13時30分～

**対象**：救命救急センター看護師20名

**出火場所**：栄養準備室



12





## 助言がないと行動できないスタッフが多数

普段からアクションカード・初期対応を見ておかなければ動けない

防災設備の場所が見えられない

アクションカードが分かりにくい



避難の際何を持ち出せばよいか分からない

定期的なシミュレーションを行うべきだ

## 救命救急センター

### リーダー

1. 棟内の混乱を鎮めよ  
➢メガホンで「現在状況を確認中です。看護師の指示に従い、外に出ないで下さい」

2. 安全確認を指示せよ  
➢火災発生の有無  
火災発生時は「火災発生時の流れ」に従う  
➢人数の把握・負傷者の有無  
➢職員  
➢患者・家族

➢破損の把握  
➢医療機器  
➢施設（壁、窓ガラス等）

3. 被害状況を把握せよ  
➢スタッフからの情報をチェックリストに記載

ICUのリーダーと被害状況の情報共有を行う  
人員に余裕のある部署がスタッフエリアの被害状況の確認を行う

4. 災害対策本部が立ち上がったら被害状況を連絡せよ

➢時間内  
➢電話連絡（2032：人事係）  
➢電話が不通の場合は、災害対策本部へチェックリストの持参

➢時間外  
➢電話連絡（5887：当直師長）  
➢電話が不通の場合は、警備員がチェックリストの回収に来たら手渡す

必要があれば  
5. トリアージ・避難準備  
➢医師と避難させる患者のトリアージを開始  
➢避難に向けた準備をスタッフに指示  
➢避難経路を医師と確認する  
➢管理日誌・病棟マップ・連絡先一覧を持参して避難を開始

避難は、窓枠の歪み、著しいガラスの破損、避難指示が出た際に限る

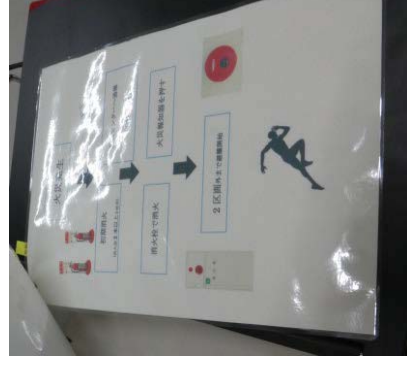
## アクションカードの問題点（訓練後に判明）

- アクションカードに書かれた情報量が多く、発災直後の状況では読みづらい点があった（理解して行動するには、内容が難しかった）
- しかしスタッフが言う「分かりにくい」は、**そもそも当院の災害対策マニュアルやBCPを理解していないことが影響しているのではないかと感じた**
- そのためアクションカードを読んだだけでは、目的をもった行動に繋がらない  
⇒どうしてそのような行動が必要なのか分からない

「アクションカードは初めて見る人が見ても動ける！」という考え方が一般的である。しかしアクションカードの背景にある**当該施設の災害対策マニュアルやBCPを理解しておかないと、活用できないだけのカードである、と認識した。**

## その他のシミュレーション後の取り組み

- 防災器具を明示した病棟マップを、目の付く所に掲示
- 火災発生時のフローを、簡潔明瞭に改訂



## 2.災害対策

### 備蓄品の検討・準備（部署・個人）

- 備蓄状況の確認
- 備蓄内容の検討
- 備蓄リストの作成・配布

### 緊急連絡網の整備

- SNSグループ（具体的にはLINE）の作成
- 運用練習

### 日常防災点検の強化

- 防災点検チェックリストの見直しおよびチェック体制の検討

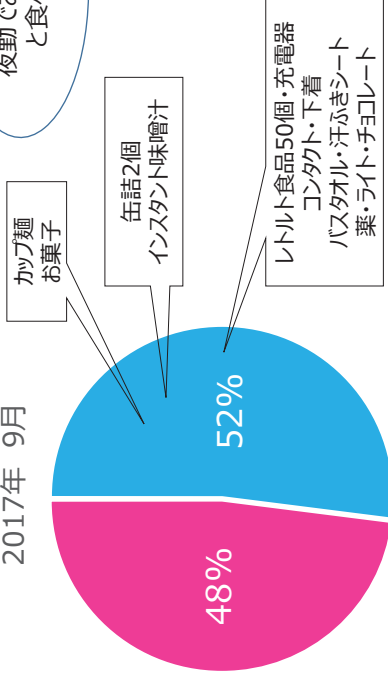


17

## 備蓄品の検討・準備

### • 個人の備蓄状況を調査

2017年 9月



■ 準備している ■ 準備していない

内容の個人差が大きい状況

18

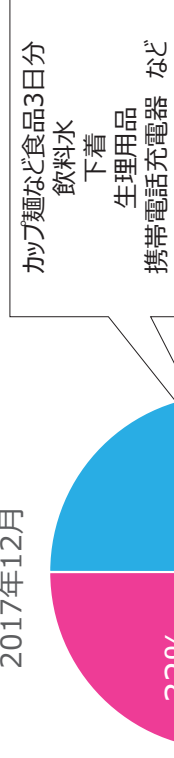
## 備蓄品チェックリスト

備蓄品	備考	個人	病棟	チェック
水	3L x 3日分		○	
ガスコンロ			○	
ガスボンベ			○	
鍋			○	
やかん			○	
非常食	3日分	○		
おはし		○		
お皿		○		
スプーン・フォーク		○		
ウエットティッシュ		○		
口腔ケアセット		○		
下着		○		
タオル		○		
充電器（携帯電話等）		○		
簡易トイレ		○		
ワイプ		○		
ドライシャンプー		(○)		
ボディソープ		(○)		
汗ふきシート		(○)		
薬		○		
生理用品	女性のみ	○		
ラジオ			○	
寝袋	病棟に2個あり		○	

- ラミネートにして全員に配布
- 新規に購入する物品については、病棟会で承認を得て、病棟費で購入
- 簡易トイレは個人での購入が望ましいが安価ではないため病棟での購入も必要。場合によってはポータブルトイレを活用



2017年12月



■ 準備している ■ 準備していない

内容がほぼ統一された

20

## 緊急連絡網の整備

- 東日本大震災の時の通信網を参考に、どのような緊急連絡網が有効かを検討
- SNSによるグループ作成にあたり、運用規約を災害係りと共に作成
- SNSの管理責任者は、看護師長
- SNSのグループに参加するかどうかは個人の意思を尊重
- 今回は全員SNSを利用してしたが、SNSを利用していないスタッフが加わった時の対応が必要
- 交替制勤務のため、電話より有用



21

## SNSアンケート機能 テンプレートの作成

- SNSのアンケート機能を活用し、どれくらいスタッフがどれくらいの時間で参加できるのかが確認可能
- スタッフの安否確認が予測可能
- アンケート機能の使用方法は、若いスタッフが多いためすぐに使いこなせた
- すぐに使用できるようアンケート機能で使用するテンプレートを作成し、患者マップとともに保存



22

## アンケート機能の練習

- アンケート機能と、作成したテンプレートが使用できるようになることを目的に、5月、9月、1月の病棟会で練習
- 1月の病棟会：27名中20名参加
- 「今後出勤可能ですか？」の問いに、2分以内に19名が回答
  - 5名…勤務中
  - 2名…病棟会に参加しておらず、2分以内に気づけなかった
  - 1名…病棟会に参加していたが、携帯電話を忘れた

### 今後の課題

- 実際には全看護師が回答するまでに、相当な時間を要する可能性がある
- 災害で携帯電話を失ったり、電波状況が悪く回答できない可能性がある

23

## 日常防災点検の強化

- 看護部では2か月に1回とされている防災日常点検
  - 防災グッズの点検の経験が全くない者もいる

毎月1回の点検に変更

- ナースステーションから離れた場所に防災グッズを配置していた
  - いざという時、使用できない可能性がある

ナースステーションからすぐ取りに行ける場所に変更

24

## まとめ

- 災害係を中心に、救命救急センター内の危機意識が高まりつつある
- 災害係の役割を担うことで、組織における存在感が高まり、日常においてもリーダーシップを発揮し管理的視点が養われた
- 災害係が今後の活路を見出した
  - 1人…日本DMAT隊員に。次年度 四国防災危機管理プログラム受講
  - 1人…香川ローカルDMAT隊員に
- 災害係の活動が継続され、次世代の人材を育成していくことが課題である

25

引用文献

1) 室崎益輝；災害に備えたマネジメント、黒田裕子・酒井明子・災害看護、第3版、メヂカ出版、大阪、2016、pp203。

26

## 四国防災危機管理プログラムでの学びの活用 ～危機管理の視点から～

医療の現場は毎日が危機管理の連続

危機管理の第一のポイント：「いかなる危機を予見し、いかに危機を想定するかである」<sup>1)</sup>



不測の事態が日常的に発生する救命救急センターの看護師に必要な能力

- 不確定な情報が錯綜するなか、迅速で正確な判断を求められる
  - 患者さんや家族への関わりは、常にリスクコミュニケーションを必要とする
  - 起こりうる事態を予測しないと、手遅れになってしまうことがある
  - それでも最善を尽くすことが、医療者としての使命
- 講義で学んだ考え方は、医療現場で求められる能力・質の向上に繋がっている
  - 防災教育を学ぶことで、医療・看護に必要な応用力・実践力を備えた考え方の基本概念を学ぶことができる
  - 今後も災害対応を一つの教育ツールとして災害教育を活用し、日常業務にも活かせる内容を教育し、人材育成に繋げていきたい

ご清聴ありがとうございました

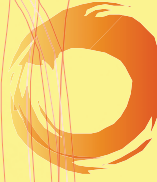
27



# 防災まいカルタ をメインとした活動報告



災害・危機対応マネージャー  
錦野 順子



## はじめに

<自己紹介>

- 小学校教諭OB
- 徳島大学で学校コースを修了した2期生
- 防災まいカルタを作成（進化中）
- 防災について学んでできて心に残ったのは、毎日の生活をきちんと生きることの大切さである。生活の全てが防災に繋がっており、人として生き方を考えることが防災なのではないかと気づいた。

2

## 1. 防災教育の方法

- ① 紙芝居や絵本の読み聞かせ等、話を聞く。
- ② 避難訓練等で体験をする。
- ③ 映像を観たり、本を読んだりする。
- ④ カルタ取りや防災すごろくをする。等

3

## 2. 防災カルタ作り

- カルタ遊びは、身近で楽しんで参加することができる。
- 少人数グループで人とコミュニケーションを取って遊びながら学ぶことができる。
- 既存のカルタが、私が学んだことを基に、伝えたいものと合致するものばかりではなかったもので、自作することにした。

4



### 3. 実践での3本柱

1. 自作の「防災まいカルタ」
2. 紙芝居「いなむらの火」
3. 実験装置「液化化現象」とそのビデオ

5

### 4. ミックスカフェでの実践

- 2016年5月10日（火）14：30～15：30
- 毎月第1火曜日、認知症の方とその家族、施設の職員、地域の方などが民家に集まって、お茶を飲んだり話をしたりするミックスカフェ。それを主催する方に「30分くらい防災の話を」との依頼を受けて行った。
- 地域に手作りのビラを貼ったださっていったので、たくさんの方が集まった。

6

## 防災教室

今だからこそ必要な知識を!!

日時：平成28年5月10日  
14：30～

場所：ミックスカフェ



- 私が受講していたのは、学校コースだったので、事前に老健にお勤めの方にアドバイスを頂いた。

1. 認知症の方と避難する時、気をつける事や持参すべきもの。
2. 福祉避難所について
3. 普段、心がけておきたいこと
4. 液化化の実験
5. クイズ

7

8

2016年5月14日

熊本地震災害を受けて カフェ参加者よりこんな時だからこそ防災についての知識を得たいとの要望により開催する。

開催日：平成28年5月10日（14時30分～15時30分）

場所：ミックスカフェ

講師： 熊野瀬子防災士

参加者：21名（世帯人含む）

講演内容：・液状化とは？（実際に水層に砂地をつかって実験）

・そのときの心がまえとしては？（近所との関係性を良くする、お薬手帳は必携、自身を守る物は何か、避難所までのルート確認、備品もローリング・ストックを心がける、すぐに避難れるものを身近に置いておく、認知症の方の対処法）

・クイズ

・質疑応答

以上

感想

- ・液状化の怖ろが実際の体験できて良かった。
  - ・地震は昼くるとは限らないので着るものを枕元に用意しておくようにする。
  - ・避難経路を実際に検証してみたい。
  - ・改めて自分の身を守る事を再認識した。いいお話でとてもよかったです。
  - ・認知症の方の対応も納得できた。
  - ・クイズの答えが納得できない。ガソリンスタンドは危険だと思う。
  - ・普段できないことはできない。本当にそうだとおもった。
  - ・近所との関係も見直し、声掛けなどしていくようにしたい。
- いろいろな質問がでて身近な事だけに皆真剣に議論沸騰し、時間をオーバーし、閉会する。

<感想>

- ★災害が起きたら助けに来てくれるから大丈夫と思っている方が多かった。
- ★自分の身は自分で守ること、自分に必要なものは自分で準備しておくことを伝えた。
- ★眼鏡を「え、持ってきてくれないの？」と尋ねられ、驚いてしまった。
- ★話していることを真剣に受け止めてくれたので、嬉しかった。

5. 婦人会での防災の話

- 「毎月第1水曜日に行っている班長会で、30分間防災の話を」という依頼を受けて始まった。

- 2017年8月30日

- ① 芝生地区の自主防が決めた避難場所4カ所と地図での話し合い

- \* より高い恩山寺へのハイキングを提案
- ② 各地域の名簿作りの必要性

2017年10月6日

- ① 防災ハイキングについて

- 注意事項、日時決定、雨天決行

- ②紙芝居「いなむらの火」

- (来週「いなむらの火の館」に行く人あり)

↓

「2018年3月10日（土）社協主催の、70歳以上の独居か、80歳以上の二人暮らしの方たちのための会食サービスの時、来た人に読んであげたいので紙芝居を借りてほしい」と依頼が来た。



## 2017年11月16日実施 ～恩山寺への 防災ハイキング～

### 第1回 芝田婦人会遊覧訓練

～恩山寺へハイキングに行こう～

- (1) 日時 11月16日(木) 9:00～13:00  
\*災害はいつ起こるかわからないので雨天決行  
(ただし、重傷者等は運搬)
- (2) 場所 国中神社
- (3) 服装 帽子、動きやすい服(長袖・長ズボン)、靴に砂は入れ、軍手(自由)  
\*雨天の場合は、雨具の準備をお忘れなく!
- (4) 持ち物 リュック、水筒、メモ帳、筆記用具、地図、おやつ
- (5) 予定
- 9:00 事前の話し合い (注意事項等)
  - 9:15 国中神社出発  
\* 危険場所や安全な場所を指してメモしましょう。
  - 10:00 恩山寺着
  - \* 自然を楽しみながら、場所の手エッグをしましょう。
  - 10:45 恩山寺出発
  - \* 来た時とは違う道を探索しながら帰りますしよ。
  - \* メモすることはお忘れなく!
  - 11:30 国中神社着
  - \* お疲れ様 ちよっと一休み
  - 11:45 事後の話し合い (感想・気づいたこと等)
  - 12:00 楽しいお弁当タイム (団に花を添わせましょう!)
  - 13:00 後片付けと帰りの準備をして解散  
お疲れ様でした。気を付けてお帰り下さい!
- (6) その他  
\* 畑さん・井田の手配 ( 備 )

13

## <感想>

- ★川の工事をしてしている所は危険。体力をつけておかなければと思った。
  - ★坂が苦しかった。お茶か水が必要だ。
  - ★お寺は広くて安全だとは思いますが、何も無い。自分で準備して持っていかなければ。
  - ★行く途中、災害対応の自販機を見つけた。
  - ★食べ物を忘れないうちにリュックに入れておきたい。
- 弁当を食べた後、お茶を飲みながら感想を話し合う中で、ローリンググストゥック等へと話が広がった。

14

## 6. 液状化現象の授業

- 2017年12月8日 (金) 6校時 理科  
見安小学校6年生 (担任とITで)

1. 液状化について知っていることは?
2. 液状化が起きてきているビデオ視聴
3. 液状化により引き起こされること  
地盤沈下の訳
4. 液状化現象の実験
5. 感想とまとめ

15

## 7. 文字入りカルタでの実践

- 2016年1月23日 (土) 13:00～15:00  
徳島市障がい者交流プラザ 3階  
ボランティア室 (難病ボランティア “あい” )  
「いなむらの火」 液状化 防災カルタ
- 2016年1月25日 (月) 16:00～16:50  
小松島市北小松島学童(1年生～4年生)  
「いなむらの火」 液状化 防災カルタ

16



## 8. カルタの改良

- 児童が、防災をより身近な事として考えられるようにするため、ぬり絵カルタにしてみてはどうかと考えた。
- 自分でカルタを作ることはできなくても、彩色だけなら簡単である。既成のものより、自分が作ったものの方が思い入れがあり、より身近な事として捉えられるのではないだろうか。

- 2016年1月27日（水） 15:00～15:30  
小松島市小松島学童（1年生～4年生）  
「いなむらの火」 防災カルタ

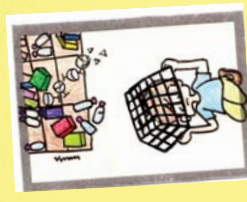
### 《実践後の改良》

小学生だけでなく、保育園児や大人の方にもカルタ取りを実施し、被験者から意見を聞くと、「字がなくても分かる」との意見が多かった。

そこで、文字シールを絵札の裏側に移動させた。

## 9. ぬり絵カルタでの実践

- 2017年11月2日（木）1校時 総合  
小松島市児安小学校 3年生



1. 絵札のみでの学び
  - ① 「ダンゴ虫のポーズ」の実技
  - ② 「机の下で脚を持つ」の実技
  - ③ 「廊下は右側を静かに歩く」  
「エスカレーターでは移動手すりをもつ」等の大切さについての話し合いと説明。

### 2. 絵札に彩色

- 1枚ずつ絵札を渡し、
- ① 大事だと思ふところに彩色。
  - ② 時間に余裕のある人は残りの部分も彩色。
  - ③ できたら前に出し、次の1枚を持ち帰り彩色。



### 3. カルタ取り

- ①机を両サイドに移動させる。
- ②カルタを中央に並べる。
- ③カルタの周りに円形に椅子を並べ、内側を向いて腰を掛ける。
- ④教師が読み札を読みあげ、児童は出席番号の1～5、6～10のよう5人ずつが絵札を取りに行く。



21

### 2. 防災まいカルタ

- ① 絵札に彩色する。
- ② 彩色できていないものも含め、全てのカルタを並べる。
- ③ 講師が読み札を読みながら進め、随時、児童の質問に答えたり発問したりする。



23

- 2017年12月1日（金）14時～15時
- 阿南市新野東小学校学童

（1年生～4年生）

### 1. 「いなむらの火」

- ① 紙芝居を読む。
- ② 物語が事実を基に作られていること、事実と物語の相違点について
- ③ 濱口梧陵（儀兵衛）さんについて



22

### 3. 感想

- \* 「楽しみながら学べるカルタは、大変よかったです。私たちも一緒に学べてよかったです。」  
学童指導員
- \* 「紙芝居は本格的で、昔の事から学ぶ大切さを聞けてよかったです。  
田んぼを見ると思います。」  
1年生男児

24



## 10. カルタの推移

- ① 読み札の最後の言葉を入れたカルタ  
「文字がなくても分かるよ！」
- ② 文字なし絵札（裏側に文字）  
↓
- ③ 「絵札にもっと関心を持たせたい！」  
ぬり絵札  
↓
- ④ 「児童の意見も取り入れてみよう！」  
書き足す絵札 へ

**NOW!!**

25

- 皆様に、宿題 です！

読み札

**「防災は よりよく生きる ことだった」**

の絵札を募集しています。絵でなくても、ヒントの言葉だけでも結構です。よろしくお願いいたします！

防災カルタを作るきっかけを与えてくださったすべての方々から感謝をしております。ありがとうございました！

27

## おわりに

- 実践を通して、日々の生活や社会の変化に合わせて、大切だと思われる事柄を分かりやすく伝えられるよう、カルタ作りを続けていきたい。
- それが命を守ることの大切さに気付くきっかけとなり「自分の命は自分で守る」ことができるよう、自分の頭で考える行動できる人が増えるように願っている。

26

**ご清聴ありがとうございました！**



28